

「インターネットの長時間利用に関する緊急調査」結果の概要 (抽出調査)

県教育庁義務教育課・高校教育課

1 調査の目的

児童生徒を取り巻くインターネット環境は、時間や場所を選ばないスマートフォンを用いたソーシャルメディア依存といった、新たな形態の依存傾向が増加しているのではないかと懸念されている。

このため、毎年実施している悉皆調査では調査していないネットの長時間利用（いわゆるネット依存）に関する内容を分析することにより、依存傾向に陥りやすい環境等を明らかにし、児童生徒のインターネットに関する問題への対策を検討することを目的として調査を行う。

2 調査の概要

調査時期、調査方法 平成26年10月、県教委が作成した無記名アンケート

調査対象 公立学校児童生徒のうち、県教委が抽出した小学校6年生以上の約1割の児童生徒(各市町村1校以上実施)

対象校数 86校(小学校54校、中学校24校、高等学校8校)

回答者数 9,540人(小学校1,568人、中学校4,374人、高等学校3,598人)

(1) インターネット利用機器と利用目的及び利用時間(平日、学校以外)

ア 学校以外でのインターネット利用状況

小・中学生では8割以上、高校生では9割以上が、インターネットを利用している。

イ 利用している機器

最も利用率の高い機器は「携帯電話・スマートフォン」である。パソコン、携帯音楽プレーヤー・ゲーム機は学年が上がるにつれて利用の機会が低くなり、高校生では、携帯電話(スマートフォン含む)を最も多く利用している。

ウ 機器ごとの利用目的

利用目的で最も多いもの

	携帯電話・スマートフォン	パソコン	携帯音楽プレーヤー、ゲーム機
小学6年	ゲーム	音楽、画像、動画の閲覧	ゲーム
中学生	音楽、画像、動画の閲覧	音楽、画像、動画の閲覧	音楽、画像、動画の閲覧
高校生	LINE等でのコミュニケーション	音楽、画像、動画の閲覧	音楽、画像、動画の閲覧

エ インターネットの利用時間

全校種ともに、利用時間で最も多い利用は学習活動(30分未満)、次いで音楽、画像、動画の閲覧(30分未満)である。

3時間以上利用している児童生徒の利用目的は、小学生ではゲーム、中学生では音楽、画像、動画の閲覧、高校生ではLINE等でのコミュニケーションである。

	3時間以上で最も多い利用	3時間以上で2番目に多い利用
小学6年	ゲーム(3.8%)	音楽、画像、動画の閲覧(2.4%)
中学生	音楽、画像、動画の閲覧(4.6%)	ゲーム(4.5%)
高校生	LINE等でのコミュニケーション(8.3%)	ゲーム(4.5%)

(2) ソーシャルメディアの利用を通じた悩みや負担感と対応策

ア 悩みや負担感

小学生の74.6%、中学生の54.6%、高校生の52.7%は「悩んだり負担に感じたりすることはない」と回答している。

ソーシャルメディア(ライン、カカオトーク、スカイプ、フェイスブック、ツイッター、mixiなど)でのコミュニケーションを利用する際の悩みや負担感について、小学生では「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと」が最も多く、中学生・高校生では「自分が書いてしまった内容について、後から『あれで良かったか』などと悩む」が最も多い。

イ 対応策

「悩みや負担感」を解消するために必要と考える取組として、「家族で利用の仕方について話し合ったり、ルールを決める」が最も多い。

(3) スマートフォン利用による生活時間の変化

スマートフォンを使い始めてから、それ以前より減った時間は「勉強時間」、「睡眠時間」、「テレビを見る時間」が多く、いずれも学年が上がるにつれて増加している。

また、「減った時間はない」と回答する割合は学年が上がるにつれて減少している。

(4) 「インターネット依存傾向」計測結果 (総務省調査に準拠して計測 ※10ページ参照)

インターネットの利用に関する20項目について、児童生徒自身が回答結果から算出した合計値を右下の尺度にあてはめた結果、ネット依存傾向「高」と計測された小学生は、約90人に1人、中学生・高校生は約38人に1人という割合であった。

※全回答者に対する割合(%)

	高	中	低
小学6年	1.1	14.8	84.1
中学生	2.6	31.9	65.5
高校生	2.7	49.3	48.0

ネット依存傾向尺度
20点～39点 … ネット依存傾向「低」
40点～69点 … ネット依存傾向「中」
70点以上 … ネット依存傾向「高」

3 県教委の対応及び取組

- 各学校において、児童生徒の自宅での学習時間等の記録等を通して、インターネットの利用時間等を把握し、適切な利用について指導するよう啓発を行う。
- 「子どものサポート体制整備事業」において、ネット利用に関して児童生徒自身で利用の仕方を考えさせる指導案を作成し、活用について周知する。

「インターネットの長時間利用に関する緊急調査」結果 (抽出調査)

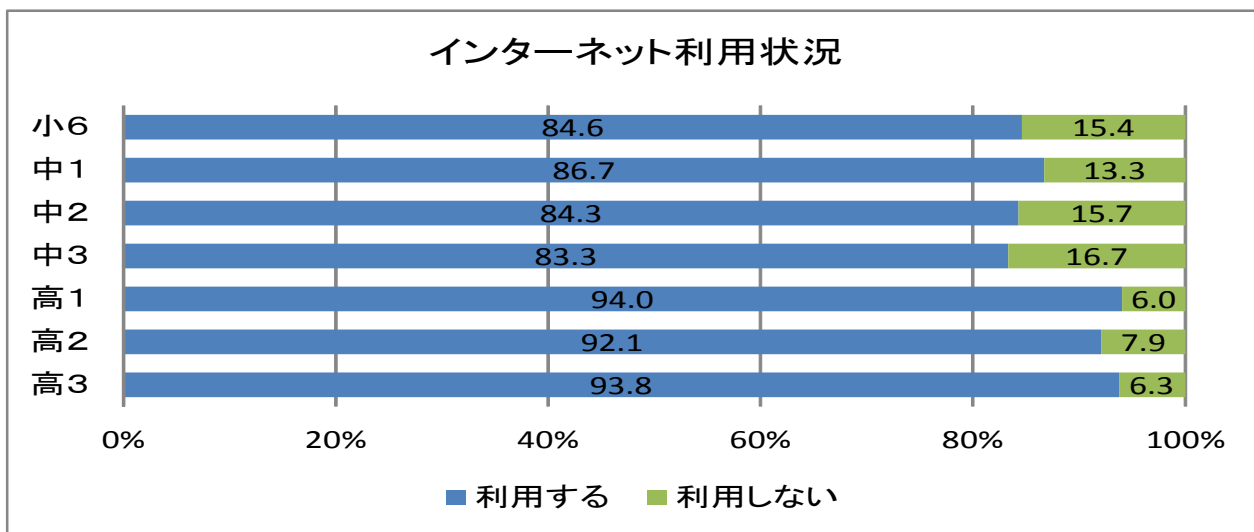
県教育庁義務教育課・高校教育課

調査の概要

調査時期、調査方法 平成26年10月、県教委が作成した無記名アンケート
 調査対象 公立小学校6年生以上の約1割の児童生徒を対象（各市町村1校以上実施）
 対象校数 86校（小学校54校、中学校24校、高等学校8校）
 回答者数 9,540人（小学校1,568人、中学校4,374人、高等学校3,598人）

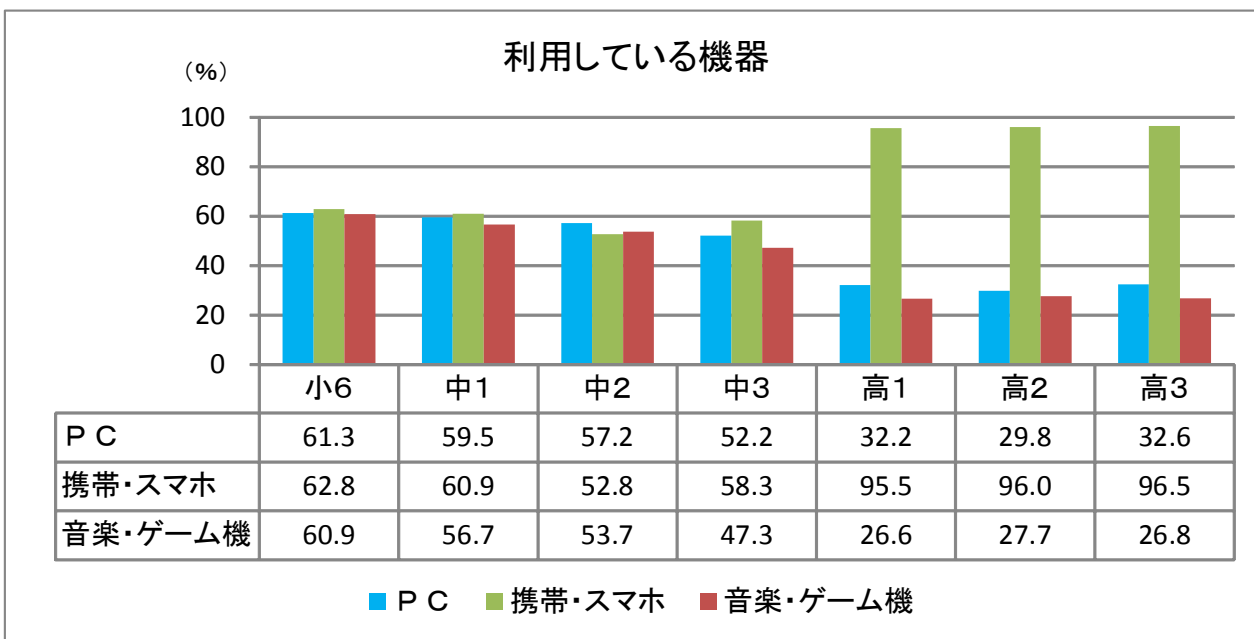
I インターネット利用機器と利用目的及び利用時間

1 学校以外でのインターネット利用状況



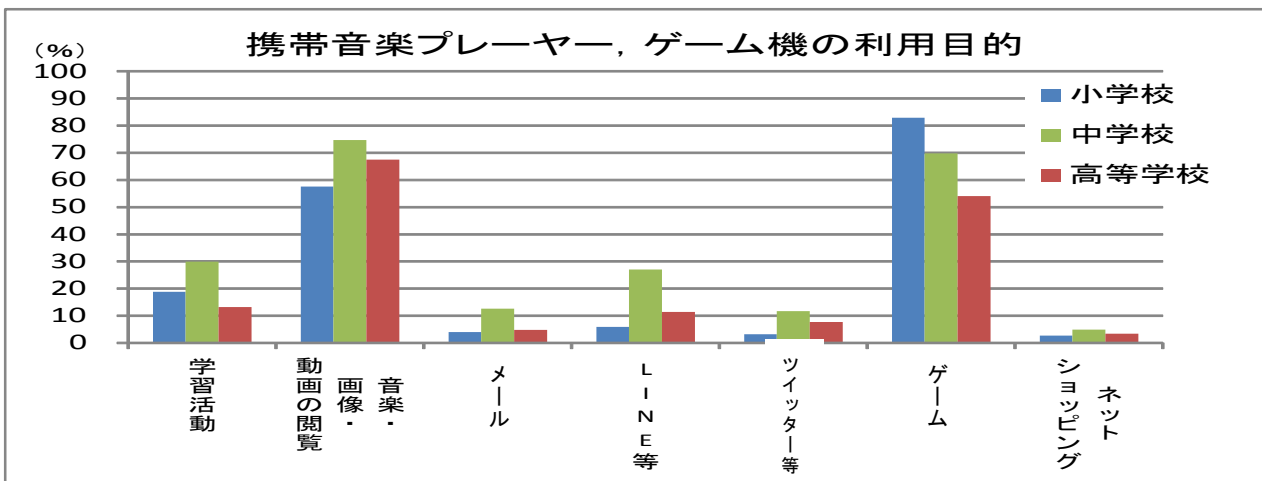
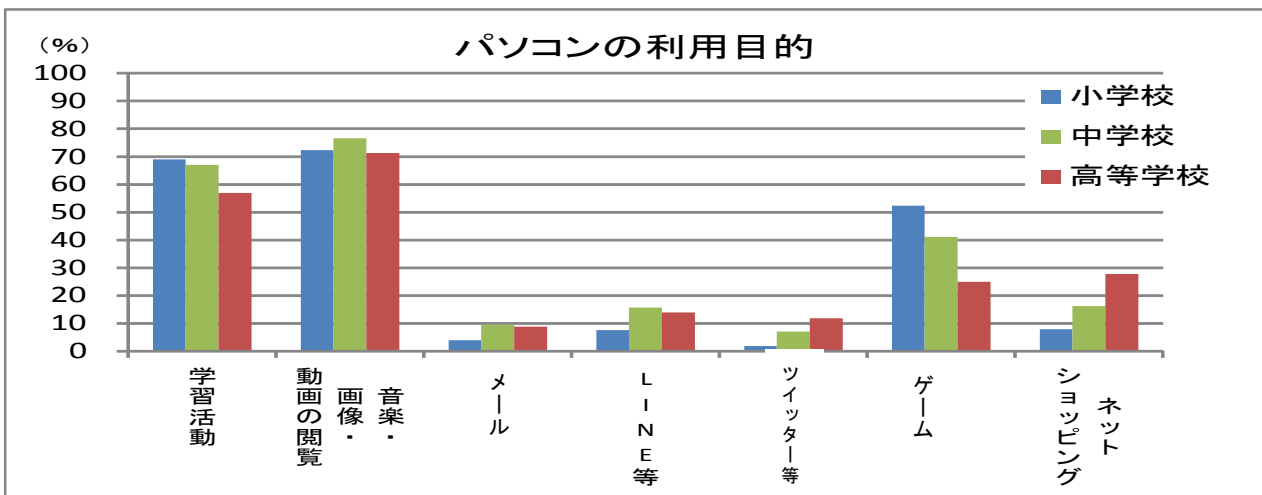
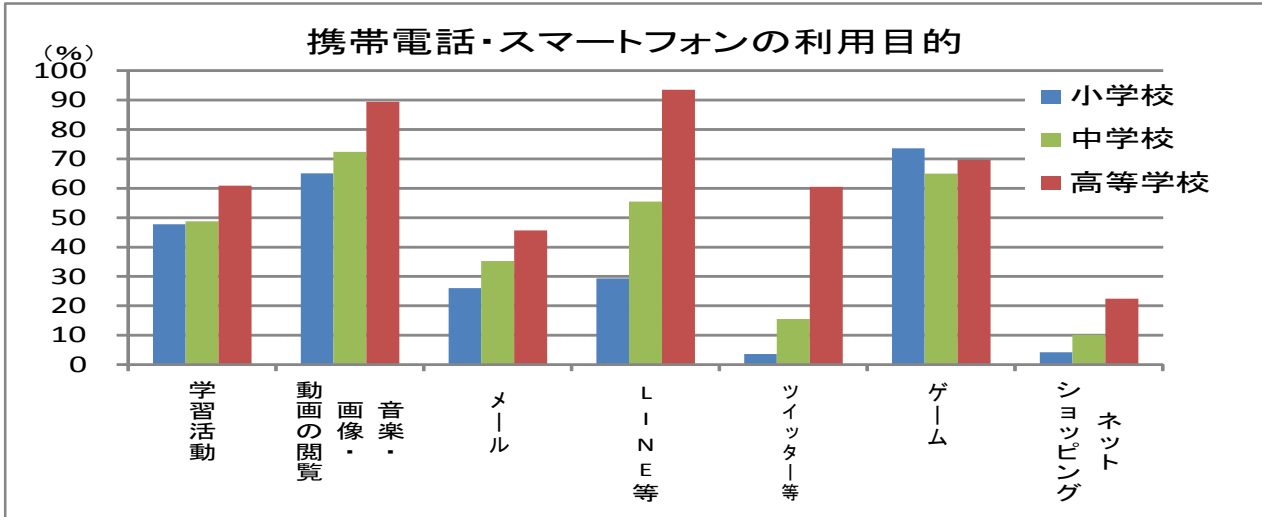
2 利用している機器

- (1) パソコン（タブレットを含む）
- (2) スマートフォン又は従来型携帯電話
- (3) 携帯音楽プレーヤー（iPod など）、ゲーム機（ニンテンドーDS、PSP、Wiiなど）

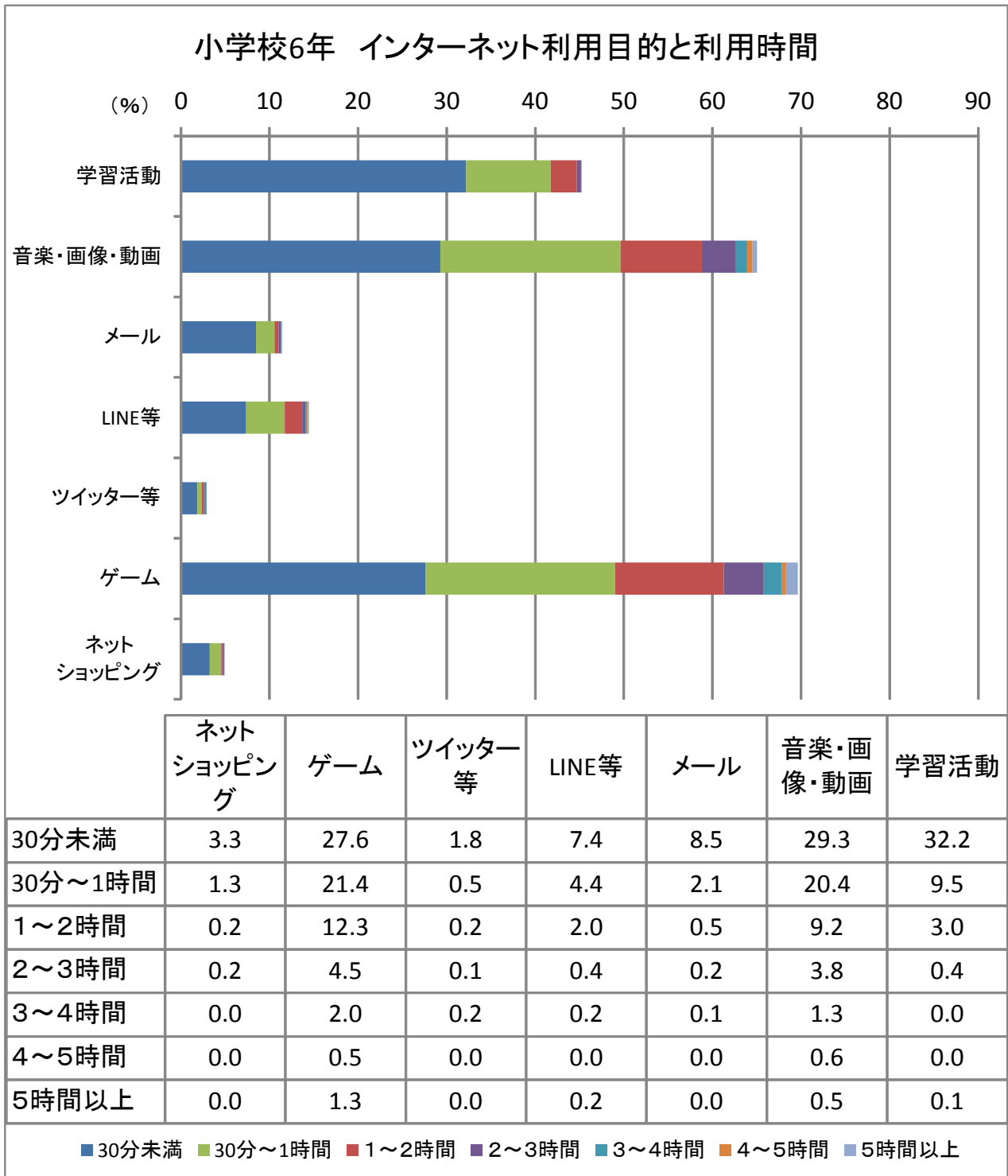


3 機器ごとの利用目的

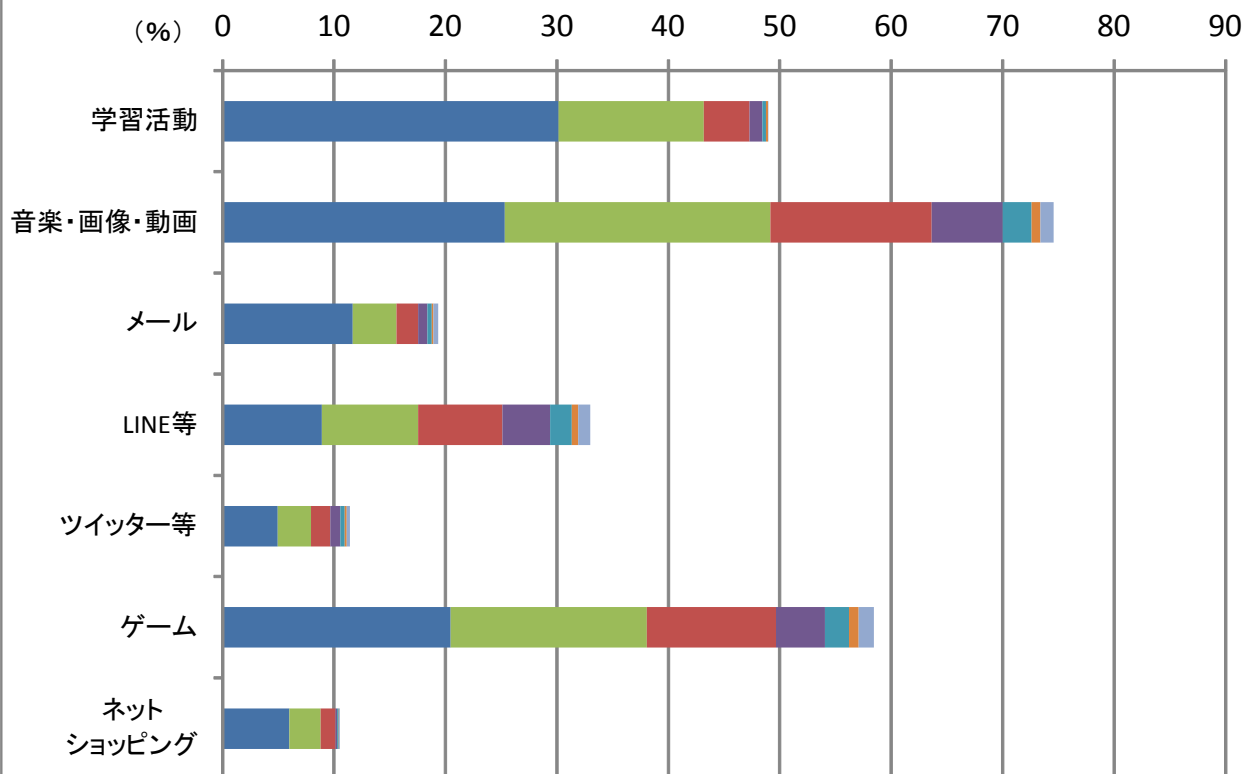
- (1) 学習活動(調べ物など)
- (2) 音楽, 画像, 動画の閲覧やダウンロード(学習活動以外)
- (3) メール(Eメールやショートメールのみ, ライン等の利用は(4)で回答)
- (4) ライン, カカオトーク, スカイプなどでのコミュニケーション
- (5) フェイスブック, ツイッター, ミクシィなどでのコミュニケーション
- (6) ゲーム(ダウンロードしたアプリでのゲームも含む)
- (7) 買い物やチケットの予約など



4 インターネットの利用時間



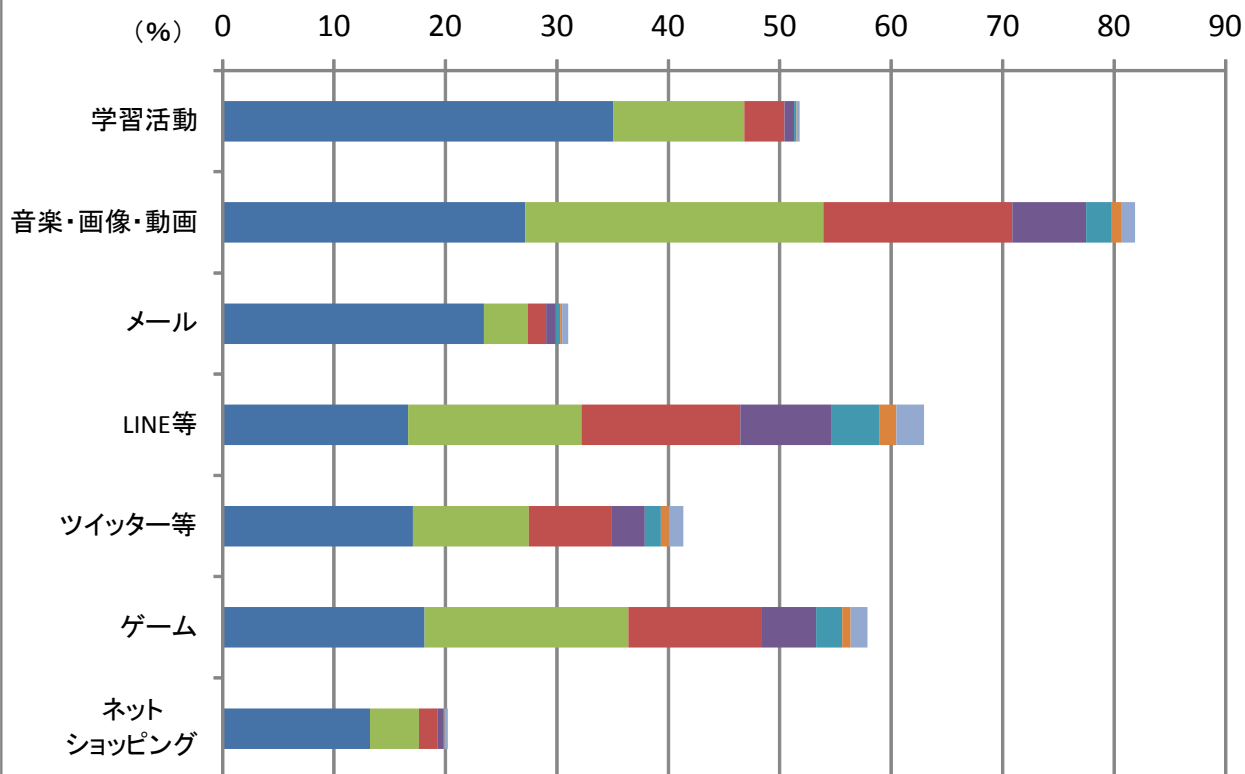
中学校 インターネット利用目的と利用時間



	ネット ショッピング	ゲーム	ツイッター 等	LINE等	メール	音楽・画 像・動画	学習活動
30分未満	6.0	20.5	5.0	8.9	11.7	25.3	30.1
30分～1時間	2.8	17.6	3.0	8.6	4.0	23.8	13.0
1～2時間	1.3	11.6	1.7	7.6	1.9	14.5	4.1
2～3時間	0.1	4.4	0.9	4.3	0.8	6.4	1.1
3～4時間	0.1	2.2	0.4	1.9	0.4	2.6	0.3
4～5時間	0.1	0.9	0.2	0.6	0.2	0.8	0.2
5時間以上	0.1	1.4	0.3	1.1	0.4	1.2	0.0

■ 30分未満
 ■ 30分～1時間
 ■ 1～2時間
 ■ 2～3時間
 ■ 3～4時間
 ■ 4～5時間
 ■ 5時間以上

高等学校 インターネット利用目的と利用時間



	ネット ショッピング	ゲーム	ツイッター 等	LINE等	メール	音楽・画 像・動画	学習活動
30分未満	13.2	18.1	17.1	16.6	23.4	27.2	35.1
30分～1時間	4.4	18.3	10.4	15.6	3.9	26.7	11.7
1～2時間	1.7	12.0	7.5	14.2	1.6	17.0	3.6
2～3時間	0.5	4.9	2.9	8.2	0.9	6.6	0.9
3～4時間	0.1	2.3	1.4	4.3	0.4	2.3	0.2
4～5時間	0.0	0.7	0.7	1.5	0.2	0.8	0.0
5時間以上	0.3	1.5	1.3	2.5	0.5	1.3	0.3

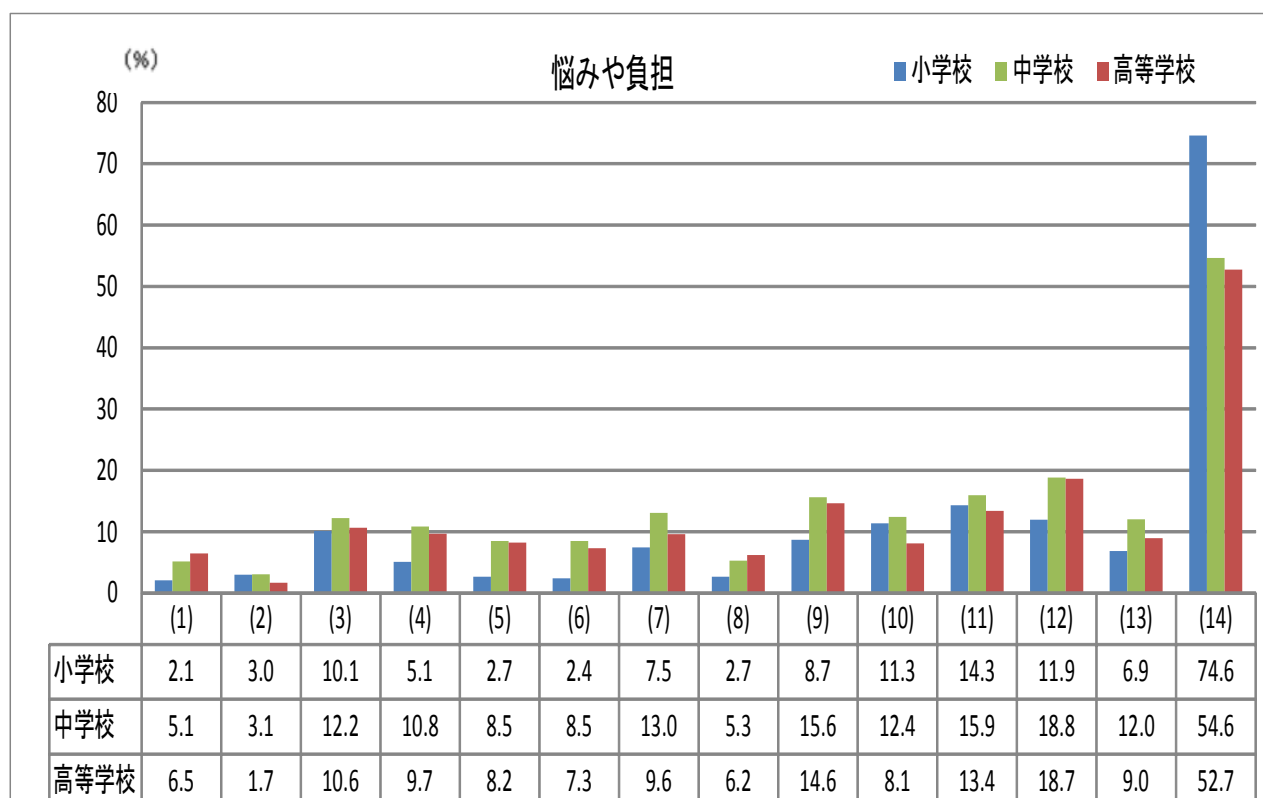
■ 30分未満 ■ 30分～1時間 ■ 1～2時間 ■ 2～3時間 ■ 3～4時間 ■ 4～5時間 ■ 5時間以上

Ⅱ ソーシャルメディアの利用を通じた悩みや負担感と対応策

1 ソーシャルメディア(ライン, カホーク, スカイプ, フェイスブック, ツイッター, ミクシィなど)でのコミュニケーションを利用する際、悩んだり負担に感じたりすること。

※ ライン, カホーク, スカイプ, フェイスブック, ツイッター, ミクシィなどを利用する児童生徒のみ回答(複数回答)

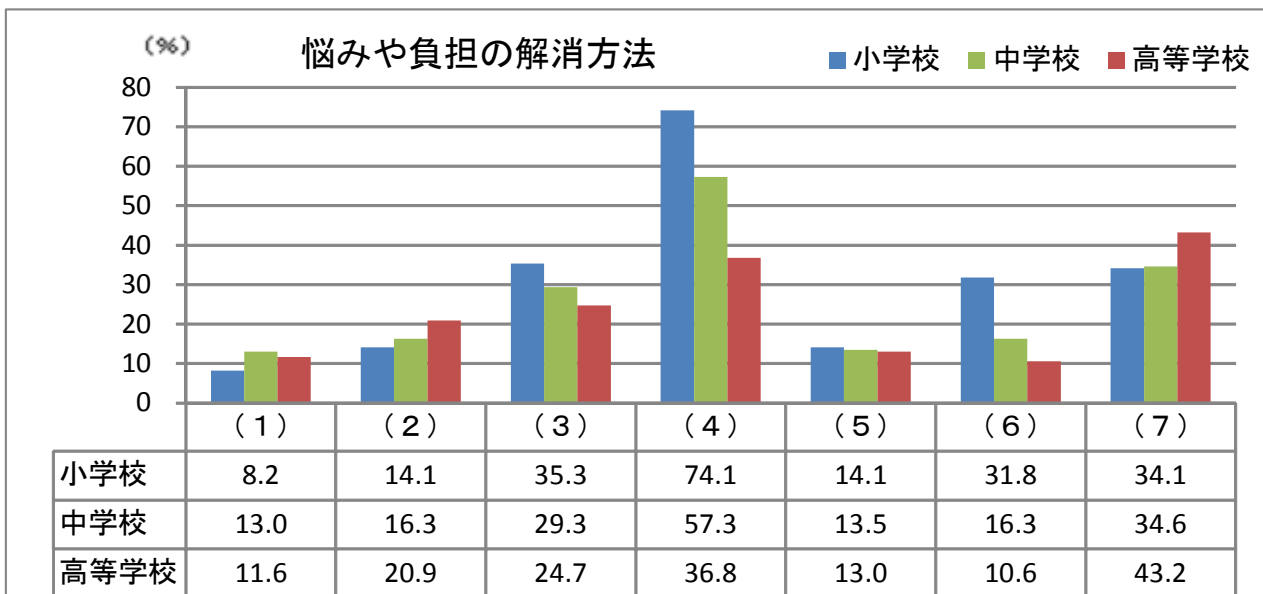
項目
(1) ソーシャルメディア内の人間関係
(2) ひんぱんにメッセージを ^{とうこう} 投稿しなければいけないような気がする
(3) 友だちのメッセージをチェックすること
(4) 自分の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいものか悩む
(5) 他人の個人情報やプライベートなことをどこまで書いてよいものか悩む
(6) 悪意のあるコメントや不快な書き込みがあること
(7) 見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる
(8) 知りたくもないのに人の行動がわかってしまうこと
(9) メッセージを読んだことがわかる機能(「既読 ^{きどく} チェック」など)があること
(10) メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと
(11) 友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと
(12) 自分が書いてしまった内容について、後から「あれで良かったか」などと悩む
(13) 自分の書いたメッセージに反応がないこと
(14) 悩んだり負担に感じたりすることはない



2 ソーシャルメディア(ライン, カトク, スカイプ, フェイスブック, ツイター, ミクシィなど)でのコミュニケーションを利用する際に悩んだり負担に感じたりすることを解消するために必要と考える取組。

※ ソーシャルメディアを利用して悩みや負担を感じている児童生徒のみ回答(複数回答)

項目
(1) 授業などで年齢の近い大学生から利用の仕方について学ぶ
(2) 悩みや不安を相談できる窓口や機会を増やす
(3) 児童生徒同士で利用の仕方について話し合ったり, ルールを決める
(4) 家族で利用の仕方について話し合ったり, ルールを決める
(5) 学校全体で利用の仕方について話し合ったり, ルールを決める
(6) 夜〇時以降は書き込みをしないなどの統一のルールを地域(県や市町村単位)で決める
(7) 特に取り組む必要はない

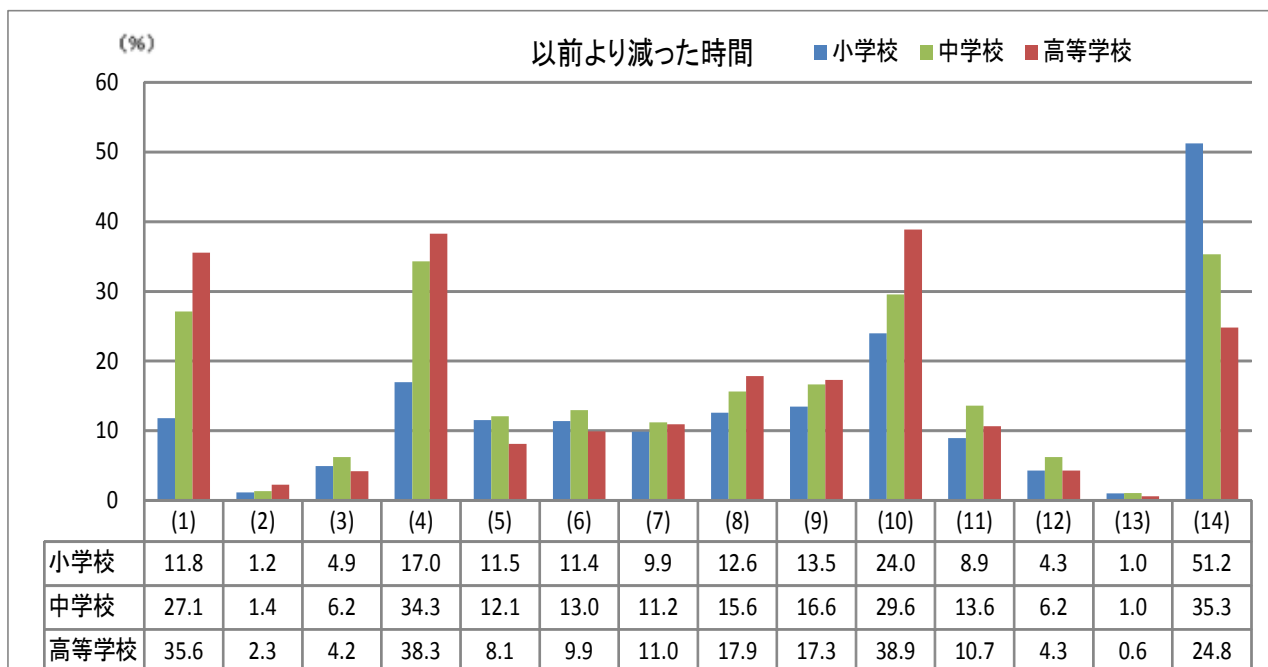


Ⅲ スマートフォン利用による生活時間の変化

スマートフォンを使い始めてから、それ以前より減った時間はありますか。

※ スマートフォンを所持している児童生徒のみ回答（複数回答）

時間
(1) 勉強の時間
(2) 部活の時間
(3) 食事の時間
(4) 睡眠時間
(5) 家庭での役割（食事の準備や片付け、掃除、洗たくなど）の時間
(6) 外へ遊びに出かける時間
(7) 趣味に使う時間
(8) 本（マンガや雑誌以外）を読む時間
(9) マンガや雑誌を読む時間
(10) テレビを見る時間
(11) 家族と話す時間
(12) 友だちと会う時間
(13) その他（具体的に）
(14) 減った時間はない

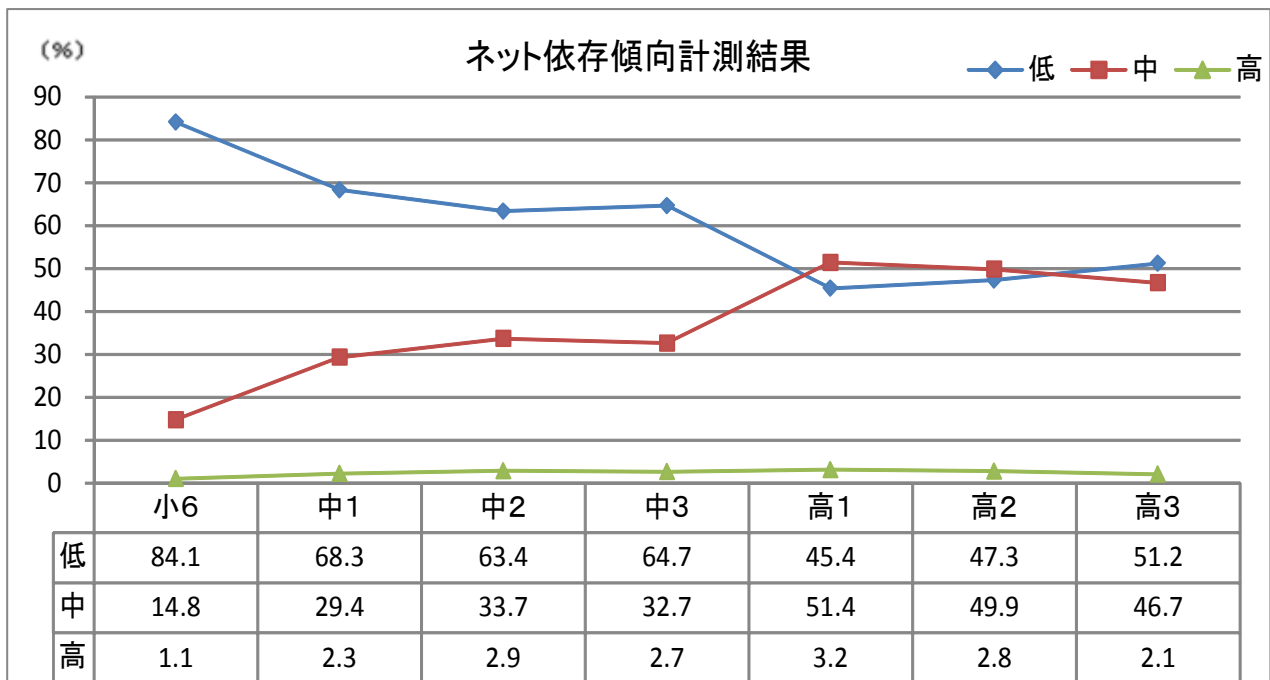


IV インターネットを利用して感じていること

【児童生徒への調査票】

項目	程度				
	いっせもある	よくある	ふつふつある	めったにない	まったくない
(1) 気がつくと、思っていたより長い時間ネットをしていることがある	5	4	3	2	1
(2) ネットを長く利用していたために、家庭での役割(食事の準備や片付け、掃除、洗たくなど)をおろそかにすることがある	5	4	3	2	1
(3) 家族や友だちと過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある	5	4	3	2	1
(4) ネットで新しく知り合いを作ることがある	5	4	3	2	1
(5) 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について注意を言われたことがある	5	4	3	2	1
(6) ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている	5	4	3	2	1
(7) ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある	5	4	3	2	1
(8) 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア(ライン、フェイスブックなど)やメールをチェックすることがある	5	4	3	2	1
(9) 人にネット <small>かく</small> で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そう <small>かく</small> としたりすることがある	5	4	3	2	1
(10) 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある	5	4	3	2	1
(11) 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある	5	4	3	2	1
(12) ネットのない生活は、退屈 <small>たいくつ</small> で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある	5	4	3	2	1
(13) ネットをしている最中に誰かにじゃまをされると、いらいらしたり、怒 <small>おこ</small> ったり、言い返したりすることがある	5	4	3	2	1
(14) 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている	5	4	3	2	1
(15) ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある	5	4	3	2	1
(16) ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある	5	4	3	2	1
(17) ネットをする時間や回数を減らそうとしても、できないことがある	5	4	3	2	1
(18) ネットをしている時間や回数を、人に隠 <small>かく</small> そうとすることがある	5	4	3	2	1
(19) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある	5	4	3	2	1
(20) ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、ゆううつな気持ちになったりする	5	4	3	2	1
※ 各自で合計点数を記入してください。	○の数				
(必要に応じて、自分のインターネット	点数				
の利用の仕方を振り返るための参考にして	小計(○の数×点数)				
ください。)	合計点数				

39以下：低、40～69：中、70以上：高



※注

ネット依存尺度について

1 本調査で用いたネット依存尺度について

本調査では、平成26年1月に総務省情報通信政策研究所が東京大学情報学環橋元研修室との共同研究として実施した「高校生のスマートフォン・アプリ使用とネット依存傾向に関する調査」（以下、総務省調査という）におけるインターネット依存尺度を用いた。

総務省調査では、心理学者キンバリー・ヤング博士の提唱した20項目のインターネット依存尺度を参考に調整したものが用いられた。

2 ネット依存尺度を用いた判定について

インターネット依存については、疾病としての定義はなく、診断基準は確立されていない。

ヤング博士の手法に従い、点数に応じて「高」「中」「低」の傾向を計測することが可能であるが、総務省調査においても、インターネット依存尺度の時代整合性や客観性を高める必要があることが指摘されている。

依存傾向「高」に該当する者は、ネットの活用度が高いとは言えるものの、必ずしもいわゆる「ネット依存」として医学的な治療が必要な者とは限らない。専門家の診断によらず判定することはできないことに留意する。

3 ネット依存傾向の計測方法（計測方法は総務省調査に準じて実施）

児童生徒自身で合計点数を算出し、合計点数のみを集計した。

算出した合計点数について、以下のように分類した

20点～39点 … ネット依存傾向「低」

40点～69点 … ネット依存傾向「中」

70点以上 … ネット依存傾向「高」

4 計測結果の活用について

計測した結果については、必要に応じて、児童生徒自身のインターネットの利用の仕方を振り返る参考とする。